

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE GYMNASTIQUE



FIG Rhythmic Gymnastics Code of Points 2025-2028: Questions & Answers #1

Published November 22, 2024

総則

1. 選手は、ラインの外側の床に触れることなく、予備手具に触れる。線審より減点はあるか？
線審より減点なし。
2. 選手は、脚と床の間で手具(ボールまたはクラブ)をブロックすることにより、演技面外にある手具を受ける。身体はラインの外側の床に触れず、手具の上に触れるだけである。線審の減点は何か？
演技面外の手具に対し0.3点、身体への減点はなし。
3. 選手は演技面で演技をする。手具は選手によって保持され演技面上を移動するが、演技面外の広告、装飾などに触れる。手具は喪失していない。線審より減点はあるか？
線審からの減点は適用されない。
4. 手具を演技面外に喪失するが、床に触れなかった: 広告、装飾、線審、審判用テーブルなどに触れるだけ。線審より減点はあるか？
はい、手具を演技面外に喪失した場合、手具が何に触れても減点は適用される。
5. 手具を演技面外に喪失した。選手は手具を取り戻すために演技面を離れた、そして別の手具(2本目のクラブ、または団体の手具)を持つ。線審の減点は何か？
演技面外に喪失した手具0.3点+選手が演技面を離れた0.3点=0.6点。
床に触れない追加の手具に対する追加の減点はない。



6. 選手は演技の終わりに近づいた時手具を喪失する。選手は手具を追いかける時間が十分ないと判断する。音楽は再生されている。選手は手具なしで演技を続けるべきか？
選手が音楽終了まで演技を続けることが望ましい。
- 音楽が再生されている間に選手が止まった場合、音楽と調和して終了しなかったことに対する芸術減点が適用される。
 - 選手が手具の喪失から最後のポーズまでの間に4秒またはそれ以上動いた場合、「連続性の中断」に対する芸術減点が適用される。
 - 選手が予定より早く停止した場合、演技時間に対する計時の減点が発生する可能性がある。
7. 手具が演技の終わりに近づいた時壊れる。選手は予備手具を取る時間が十分ないと判断する。選手はどうするべきか、そして審判はどう判断するべきか？
ここでは、選手が予備手具を取らなかった場合に起きる可能性がある様々な状況の概要を示す（#9.4.2.）：
- 選手が演技面を離れて演技を中止した場合、これは中断された演技であり、審判は#8.1.を適用する。
 - 選手が「最後の動き」で手具を破損し、最後のポーズを取った場合、審判は#9.4.5.を適用する。
 - 選手が手具なしで最後の要素を実施した場合、これは手具の喪失であり、芸術の「連続性の中断」の可能性はある。
 - 選手が破損した手具で最後の要素を実施した場合、これは#9.4.2.の選択ではなく、合計得点は0.0点になる。中止する前に、いくつかの、短く、躊躇する動きを行うことは許容されるが、破損した手具での新しい要素の実施は許容されない。
8. 選手は手具を喪失し演技面を離れ、そのまま演技面外で演技を終了する、線審の減点は何か？
選手が演技面を離れる0.3点＋演技面外で演技を終了する0.3点＝0.6点
9. 手具を喪失したが演技面から離れない。選手は予備手具を使用する。代替した手具は演技終了時まで演技面内に残る。どのような減点か？
許可されない予備手具の使用（#9.2.7.）0.5点＋代替した手具が演技面内に残る（#9.2.9.）0.3点＝0.8点。
10. 選手は自分の手具を喪失し、予備手具で演技を実施している。選手は使用している手具を喪失したわけではないが、自分の手具に戻すために予備手具を演技面外に置き、演技面外から自分の手具を取った。その結果はどうなるのか？
これについてレスポンスブルジャッジの減点はなく、難度と芸術においてのみ減点の可能性はある。
#9.2.5.：「予備手具を使用した後に、選手は自分の手具を再び使用することは許可される。」この項目は手具の喪失に限定されない。これは一般的に全ての状況に対してである。
#9.2.9.：「選手が何らかの理由により手具を変更することを選択した場合、使用しなくなった手具は演技終了より前に演技面より完全に出さなければならない（線審減点なし）」。

身体難度

11. 難度表#25のジャンプ、胴を前屈しながらの横開脚ジャンプ：正しい着地の技術は何か？また、深いスクワット/しゃがみ姿勢での着地は問題ないか？

着地の技術は、膝が床に触れない限り自由。しかし、コーチは選手の健康に気を配ること。

12. 後方イリュージョン：開脚位置が必要か？脚の位置の誤差は評価するか？

はい、開脚が必要。誤差の原則が適用される。

13. 支持を伴わない後方開脚でのローテーション：回転中に脚の位置を変更することは可能か、例えば、開脚からリング(サクラ)に変更することは可能か？

1つの形を固定する必要がある。同じボックス内で形を組み合わせることはできない。最初の形のみが評価される。

14. 選手は、360度のフェットピボットを8回転実施した。3-4回転目の誤差は20度を超えているが、最後の回転は正しく実施した。手具技術要素が正しく実施されている場合、最初の2回転は有効か？そうではなく、最後の4回転（より高い価値）に価値を与えるべきか？

最初の2回転のみが有効。#12.2.2.を参照：「一度、選手が明確な形を離れる、または大きな誤差を伴った形を見せた場合、それ以上の回転は評価されない。」

手具技術要素（主に身体難度に関連するもの）

15. 選手は、後方開脚のバランス中に、フープを脚の周りで水平方向に持ち替えた。その後、フープの軸回転を伴いながら脚の周りでフープを持ち替え、後方開脚のピボットを実施した。#3.6を適用した場合、これらの持ち替えは「異なる面」とみなされるか？

はい、これら2つのフープの持ち替え技術は「異なる面」とみなされるため、「異なる手具技術要素」である。これらは、胴体の方向が同じ2つのDBで使用できる。

16. ボールの不安定なバランスは、肘が曲がっている場合でも有効か？

はい、不安定なバランスは手具の技術要素として有効。ほとんどの不安定なバランスでは、肘を曲げることは不正確な技術とみなされ、実施で減点される。

17. 採点規則集では、ボールを握る/掴むように実施される不安定なバランスは、手具の技術要素「不安定なバランス」として有効ではないと説明している。他の技術要素（持ち替え、受けなど）でボールを掴んで実施した場合はどうか、それらは有効か？

その原則は「不安定なバランス」にのみ適用される。持ち替え、受けなどは他の技術要素となる。これらの技術要素中にボールを握る/掴んだ場合、その技術要素は有効となるが、そのつど実施で減点される。不安定なバランス中にボールを握る/掴んだ場合、「不安定なバランス」の技術要素は無効となる。

18. 選手は、1080度の回転でピボット難度を実施した。最初の720度では、いずれの技術要素も伴わず、ボールは握る/掴むように実施された。最後の360度で、選手は正しい持ち替えを実施した。この難度はどのように評価されるか？
難度は、有効な手具技術要素（持ち替え）で実施されるため、有効。実施審判員は、掴んだボールに対して減点を与える。
19. 「明確な変更」を伴うボールの不安定なバランス：これは頭の上の位置でのみ可能か、または身体の前で使用することもできるか？
身体の前で使用することも可能だが、その位置が明確に不安定であり、目に見える変化が明確に示されている場合に限る。単なる手から手への持ち替えではなく、明確な変化が必要。
20. ボールの周りで両手の回転（最低2回）：これらの2回転は連続的に、または直ちに実施する必要があるか？または、フェットバランスの最初の形で1回転、最後の形でもう1つの回転を実施することは可能か？
すべての手具技術は、中断することなく実施する必要がある。ボールの周りで両手を回す回転は、停止せずスムーズに行われ、テンポは自由である。2回転はゆっくり、連続して、直ちに回転を実施することが可能。1回転+ボールを片手または両手で静止させたまま保持+2回転は、回転が中断された例である（無効）。
21. 床へのクラブの打ち（最低2回）：2回の打ちは連続的に、またはダイレクトに実施する必要があるか？または、2回転の後方イリュージョンで各回転に1回の打ちを実施することは可能か？
打ちの特性により、速い打ちと遅い打ちの両方が認められている。打ちの技術の間にクラブの動作が中断されない限り、各イリュージョンで1回の打ちが可能。床への1回の打ち+手から手への持ち替え+もう1回の床への打ちは、中断された打ちの例（打ちは手具の技術要素としては無効）。
22. 床へのクラブの打ちは、最低2回あること。最初に1本目のクラブで実施し、次に2本目のクラブで実施した=2回の打ちになるか？
はい、#3.3.3.の解説/例を参照：「1本または2本のクラブで床を打つ：最低2回連続で打つ（2本のクラブを1回同時に打つだけでは不十分）」。
23. ブーメランからリボンを引き戻す際、リボンの端を放してもよいか？
はい、引き戻し後、リボンの端を放すことが可能。受けの最中にリボンの端を手を持っている必要はない。
24. 選手は、頭の上で大きな回旋を描きながらピボットを実施。その後、頭の上で同じ大きな回旋とらせんを伴ってフェットバランスを実施。フェットバランスは有効か？
#3.6.1.2.を参照。「各DBが有効になるには最低1つの新しい（演技中それまでのDBで実施されていない）手具技術要素を行うこと；追加の手具技術要素は繰り返すことができる。」らせんが新しい手具技術要素である場合、らせんはフェットバランスを有効にする。
25. 選手は、シリーズで4つのリープ/ピボットを実施。1番目と4番目は正しい手具の操作で実施し、2番目と3番目は正しい手具の操作を伴わず実施した。1番目と4番目の難度に価値を与えることができるか？
はい、#8.10.1.（リープ）と#12.8.1.（ピボット）の原則に従って、実施された全ての形に価値を与えることができる。

回転を伴うダイナミック要素

26. #4.10.4. : 「ジョイントされていない2本のクラブの投げ: この基準は、同時に、非対称、または滝状で実施された投げに対して1度だけ与えられる。「1度だけ」とはどのような意味か?
この基準は、2本のクラブを投げるすべての種類に対して、Rごとに1回与えられる: 2本のクラブを投げる+0.1点に加えて、同じ2本のクラブを滝状で投げる+0.1点は与えられない。
27. 滝状の投げの使用は、最大2回のRで実施することに制限されているか?
いいえ、滝状の投げの使用に制限はない。「滝状でのRの場合、最大2回の投げが評価される」という説明は、各個別のRの評価についてである。
28. 選手はプレアクロバット要素を実施する: 最初の局面で、選手は足の左右に手をつく。次に、側転のように股関節が開く。これはどのプレアクロバット要素のグループか?
#4.5.3. 「最初の回転の局面がプレアクロバット要素の種類を決める」を参照。手を横並びにつくと(移動方向に対して垂直に)、前方転回である。

手具難度

29. 「軸周りのフープの自由な回転: 身体の周り」: このベースは手の周りを回転させて行うことができるか?
いいえ、手の周りの回転は有効なベースではなく、ただの有効な手具技術要素にすぎない。
30. 技術要素の「ジョイントされていない2本のクラブの低い投げ」について、採点規則集では「次々と」の実施が許可されている。DAベースの「ジョイントされていない2本のクラブの低い投げ」については、「次々と」についての記載がない。技術要素とDAベースのオプションを明確にしてほしい。
どちらの場合も、低い投げのある時点で、両方のクラブが同時に空中にあること。クラブAを投げて受ける、それからクラブBを投げて受ける、これらは1本のクラブの低い投げを伴う2つの連続した技術要素/ベースである。
31. 選手は風車でDAを試みるが腕が離れすぎている。審判は風車の代わりに、2本のクラブによる小円でDAを与えるべきか?
いいえ、選手が風車を試みていることが明らかな場合、審判は風車のみ評価することができる。審判員は、風車を小円に「変更」することはできない。
32. 「回転を伴う難度または動きの最中に(...)スティックを手で保持せずに(...)、身体の周りで布の完全な円の図形を作る」: これがベースの定義の一部である場合、「手以外」の基準を与えることは可能か?
はい、ベースは手を伴わずに実施する必要があり、「手以外」の基準が与えられる。使用可能な基準を理解するには、#5.8.-5.11. (DA 基準一覧) を参照すること。
33. リボンのらせんと蛇形が視野外にあるとみなされる場合: インパルスに対してのみ手が正しい位置にあるだけで十分なのか、または形が完了するまで手を視野外に保持するべきか?
手の位置は、形(4つの輪/波)が完了するまで保持する必要がある。

34. 「投げる腕が(...)“視野外”と定義されたゾーンにあること」。腕全体がこのゾーンにある必要があるか、または腕の一部がゾーンにあるだけで十分か？

選手は、投げにさまざまな技術を使用できる。「視野外」を与えるためには、腕の大部分が定義されたゾーンにあること。

35. 「首の後ろで両腕を曲げたボールの両手受けに対して視野外は与えられない。」この種類の受けが片手で実施された場合、「視野外」の基準は与えられるか？

はい

36. 選手は、脚の後ろから開始する大きな転がしを伴って、後方スケールバランスを実施。この転がしは「視野外」から開始するため、この基準を与えるか？



いいえ、手だけがゾーンにあるため、動作する腕は「視野外」と定義されたゾーンにはない。

37. 選手は、横スケールバランス中にフープを転がす。胴の後ろから手でフープを転がす。これはDA(DBと視野外)とみなされるか？

はい、動作する腕が背中のある場合、転がしは「視野外」にある。

38. 選手はダイブリープを実施、腰の近くの手で脚の下からリボンを後方に投げる。これは視野外か？「視野外」になるためには、投げる腕はどこにあるべきか？

いいえ、これは視野外ではない。ブーメランの場合、腕の大部分が定義されたゾーンにあること。しかし、この要素は脚の下であり、プレアクロバット要素中である。

39. 「視野外」の一般的な図は、開脚リープで脚の下のゾーンを示している。これは、開脚リープ中の脚の下のらせんは「視野外」にあることを意味するか？

いいえ、これは視野外ではない。らせんの場合、図形だけではなく手は定義されたゾーンにあること。

40. 選手は床に仰向けに横たわる：頭上の腕を使用して、手の助けを借りずに実施されたベース。これは「視野外」とみなされるか？

腕と床の間の受けは視野外である。その他のベースはルールで禁止されていないが、この位置で実施することは技術的に不可能なことが考えられる。

41. フープの斜めまたは水平の投げ:選手は完全に仰向けになった状態で、フープをふくらはぎで床に押し付けて受ける、脚はフープの内側。これは視野外か？



いいえ

42. 2本のクラブの低い投げ:選手は完全に仰向けになった状態で、ふくらはぎまたは足で床に押し付けてクラブを受取る。これは視野外か？



いいえ

43. 低い投げが「脚の下」の基準を受取るためには、具体的には何が脚の下にあるべきか？
動作する腕、腕の一部、手、または手具だけ？
「動作する腕」または「動作する身体部位」についての解説は、視野外の場合のみ与えられる。「脚の下」の場合、少なくとも手は脚の下にあること。
44. 選手はフェットピボットを複数回転実施。4回転目で、選手は大きな誤差で実施。6回転目で選手はDAを試みる。DB基準は有効か？
いいえ、DBが定義に従って実施されなくなった場合、DB基準は無効。
45. 選手はフェットピボットを複数回転実施。選手は4回転目でボールを握る。6回転目で選手はDAを試みる。DB基準は有効か？
はい、他のすべての局面が定義に従っている場合、基準は有効。#2.7.を参照: 握られた場合、DBは無効になることはない。実施審判員は、握られたボールに対して減点する。
46. 選手は、フェットピボットを複数回転実施。ピボットの途中で手具は静止している。最後に、選手はDAを試みる。DB基準は有効か？
はい、他のすべての局面が定義に従っている場合、基準は有効。#2.7.を参照: 手具の静止はDBを無効にしない。実施審判員は、手具の静止に対して減点する。

47. 選手は、バランスDB中にエシャッペの実施を試みた。選手はしっかりと形が固定される前にスティックを放すが、形は20度の範囲内にある。DB基準は有効か?
はい、これはDBの最初の局面であり、基準が与えられる。
48. 全身の波動を伴うDA:波動が完了する前に、身体の回転と同じようにベース(例:大きな転がしなど)を完了させることは認められるか?
はい、認められる。
49. 全身の波動は膝での着地を含んでも良いのか?
はい、#5.4.3を参照。(波動の例)。
50. 「同じ身体要素/身体難度で実施される2個の手具ベースは、2個のDAと評価される。2番目のDAはDAの試みとして数えられ、無効。」(#5.5.3.)「身体要素」は、プレアクロバット要素も含むか?
はい
51. 選手は、視野外の転がしでフープを受ける。通常のボール/フープを背中に転がす動作は視野外にあることから、これは0.4点の価値がある組み合わせのベースか?
通常は行わない、なぜなら「受け」の瞬間は通常、視野外で行われぬ。#5.4.4.「腕を前方または側方にした状態で受け/転がしを開始する場合、受けでの「視野外」は無効。」
52. 選手は、DBで高い投げから腕でリバウンドを伴ってフープを受けた。これは受け+DB+手以外のDA0.3点か?それとも、組み合わせたベース(受け+リバウンド、ただしリバウンドは定義に従って実施されない)の試みによる無効なDAか?
このDAは、2個の有効な基準(DBと手以外)があるため、0.3点である。リバウンドを考慮する必要はない。
53. 選手は、フープの高い投げから首の周りで回転を伴って受ける。受ける瞬間に前屈し、フープが選手の首に到達、その後、首の周りを回り続ける。これは視野外か?
いいえ。この「回し」のベースは完全に視野外で実施しなければならない。首の周りの回しは、常に身体の前を通過するため、視野外にはならない。
54. 選手は、高い投げから両腕と胴体の通過を伴って、フープを受け、フープは腰の周りを回る。選手は受けの瞬間に前屈し、フープが選手の背中に到達、その後、腰の周りを回り続ける。これは視野外か?
いいえ。この「くぐり抜け」のベースは完全に視野外で実施しなければならない。フープをくぐり抜けるとき、頭/両腕から最初にフープに入り、これは「視野外」ではない。
55. 選手が2個のベースを伴って高い投げから受けを試みる。投げの高さが十分ではない。その結果、DAはどうなるか?
1つまたは両方のベースが2個の有効な基準で実施される場合、2個の基準を伴った最も価値の高いベースがDAの価値を決める。例:2個の基準を伴った低い投げ+大きな転がし=0.3点。

56. 選手は、視野外、手以外、床上の3個の基準を伴って受けを実施。受けの「床上」はなくても評価できるため、この選手はさらに床上で3個のDAを実施できるか？
いいえ、#5.4.6.「床上の位置で最高3回の連続したDAを実施することができる」を参照。DAには他に2個の基準があるが、選手は床上で実施している。
57. 選手がDBを繰り返す。DB中、選手は他に2個の基準を伴ったDAを実施するため、このDAはDB基準を必要としない。DA審判はどう評価するべきか？
DBが演技ですでに実施されている場合、DA審判は、DBを除く他の2個の基準を伴った場合であっても、DAの試みとして記録しない。例外：シリーズでのDBは許可される。このようなシリーズでは、DB基準を使用して複数のDAを実施することができる。ただし、同様のDAを繰り返すことは無効。
58. 選手は、パッセバランスで大きな転がしを実施、次に異なるDBで同じ転がしを実施した。これはDAの同様の繰り返しか？
いいえ、同様ではない。#5.6.2.「DAの同様の繰り返しは（同様のベースと基準の組み合わせ全体の繰り返し）DAの試みとして数えられ、無効。」DBが異なるボックスである場合、DB基準は同じように実施されていないため、2つのDAは同様ではない。
59. 選手は、脚を90度にしてフェッテピポットを実施。その後、DAを伴って、脚をパッセにしてフェッテピポットを実施。2番目の難度はDBとして有効ではないが、同じDBの繰り返しではないので、DAは有効か？
2番目のフェッテピポットの実施は許可されない。これは繰り返しと見なされ、DA審判はDAの試みとして記録しない。
60. 選手は高く投げ、手具の空中下で回転開脚リープを実施。その後3歩移動し、プレアクロバット要素中に手以外で手具を受けた。これは有効なDAか？
いいえ、これらの回転はRの定義に該当する。#5.6.4.2.「選手が空中下で回転を実施しない場合：回転中の投げと/または回転中の受けは、DAとしての定義が満たされている場合、DAとして評価される。」を参照。

団体：身体難度

61. 4名の選手が、フープの軸回しを伴う持ち替えでDBを実施。1名の選手は同じDBを実施するが、フープの軸回しを行うだけで持ち替えは実施しなかった。このDBは有効か？
DBは有効、5名の選手全員が手具技術グループを実施している。同じ技術要素を実施する必要はない。

団体：交換

62. 団体では、同じDE内で同じ回転(同じまたは異なるバリエーション)を繰り返すことができるか？投げの最中に1回、もう1回は空中下で。
いいえ、回転のグループを繰り返すことはできない。#4.5.の表を参照：
「各DEの各回転は異なっていること(プレアクロバット要素または垂直軸回転の異なるグループから)」。
63. 垂直軸回転の各グループは、異なるDEで2回使用してもよいか？(個人 Rと同じ原則)
いいえ、この原則は団体については触れていない。垂直軸回転の各グループは、1つのDE(1回)でのみ使用できる。
64. 垂直軸回転の各グループは、DEで1回、Rで1回使用できるか？
はい、#5.3.2.「同じプレアクロバット要素と/または同じ垂直軸回転のグループは、RとDEの両方で使用できる。」を参照。
65. 団体は、DEの受けの最中に垂直軸回転を実施する。この種類の回転は審判によって記録されるか？
はい、記録される。DE中に実施されたすべての回転(回転の基準、他の基準のために実施された回転、または基準に関係ない回転も含む)は、DB審判によって記録され、繰り返すことはできない。
66. 2名の選手がDAの受けの最中にカブリオールDBを実施。他の選手はDBを実施しない。このDBは審判員によって記録されるか？
2名の選手のみが実施したDBは記録されない:#2.3.5.「3名またはそれ以上の選手達が実施したDBはDBの試みとしてカウントされる」を参照。これは、DBが振り付けとしてなのか、またはそうではないかに関係なく適用される。
67. #4.4.4.によると、「同じ基準を同じように繰り返すことはできない」。同じ基準が同じように繰り返された場合、どのように判断するか説明してほしい。
#4.4.4. 同じ基準を同じように繰り返すことはできない:同じ基準の繰り返しは無効(減点なし)。交換は有効。
例：
● 団体は、身体の後ろで腕を使って1回目の受けを実施し、2回目に身体の後ろで腕を使って回転を試みるが、回転が遅い。これらの受けは異なる、なぜなら構成が異なるから。
● 団体は、1回目は支持脚をまっすぐにして脚を身体の後ろで投げ、2回目に支持脚を曲げて脚を身体の後ろで投げる。これらの投げは同じである。支持脚は伸びていても曲がっていても、難度は変わらない。
● 団体は、1回目は立位で受けを行い、2回目に膝立ちで同じ受けを実施した。これらの投げは異なる。

団体：連係

68. 選手は、連係の開始時に投げを実施して連係に参加する。その後、選手は5秒間手具なしであった。この連係は有効か？
連係は、すべての選手達がいずれかの時点で手具と接触している場合、有効とみなされる可能性がある。選手が連係全体を通して一切手具と接触していない場合のみ、連係は無効(#6.11)。
69. 主要動作の選手が受けの最中に2人目の選手に支えられるCR:両方の選手が受けの基準を実施する必要があるか？
はい、#6.7.7. 一般的基準については、「主要動作を実施する選手がパートナーの補助を伴って投げまたは受けの基準を実施した場合、有効となるためには両方の選手達が基準を実施すること。」を参照。
70. 通過を伴うCR:身体の大きな2部位が通過していれば、閉じられた組み合わせ/手具の中に入って出るだけで十分か？
いいえ、CRにおいて部分的な通過は認められていません。選手は、この基準を受けるために、閉じられた組み合わせ/手具を完全に通り抜ける必要がある。
71. 通過を伴うCR: 通過は、主要動作の選手が受ける手具が空中にある間、または主要動作の選手がパートナーに投げる手具が空中にある間に行われるべきか？
どちらの選択も許可される:通過は、主要動作の選手が投げた手具が空中にある間、または主要動作の選手が受ける手具が空中にある間に実施できる可能性がある。
72. 通過を伴うCR2:1名の選手がフープを通過し、もう1名の選手が通過しない場合、この場合はCR1 + 通過、またはCR2のどちらか？
CR2。#6.7.7. 解説/例「各連係は、基本定義(高い投げ、回転、受ける)を正しく実施した選手の数に応じて評価される」を参照。
73. 団体がCR2を試みる。技術的なミスにより、1名の主要動作の選手だけが受け、2番目の主要動作の選手に投げられるはずの手具が別の選手によって受けられた。この場合はCR1として認められるか、無効か？
CR1。#6.7.7. 解説/例「各連係は、基本定義(高い投げ、回転、受ける)を正しく実施した選手の数に応じて評価される」を参照。
74. シリーズを伴ったCR:同じグループの回転であっても、異なるバリエーションで実施してもよいか？
回転は同じでなければならない、#6.7.7. のシリーズの注意を参照:「『同じ』とは、プレアクロバット要素が同じグループに属し、同じ種類で実施されることを意味する」。
75. シリーズを伴ったCR:主要動作の選手がパートナーへの投げ返しで手具を受けることは可能か？
はい、「CRの受け」に関する#6.7.5.5を参照:「身体上の手具の投げ返しまたはリバウンドは、いずれかの選手によって受けられる限り…手具の『受け』とすることができる」言い換えれば、シリーズは、自分の手具を受ける、パートナーに投げ返しまたはリバウンドさせることで成立する場合がある。

76. 団場で、シリーズを伴ったコンバイン連係を実施。連係は明らかに無効であっても、シリーズは2つの可能なシリーズのうちの1つとして記録されるか？
はい、シリーズは記録される。
77. GR:主要動作の選手は投げ、回転を実施するが、パートナーは彼女に手具を投げるができない。彼女は手具を渡され受け取った。これはGRの試みとして認識されるか？
はい、選手は高い/長い投げと回転を実施しているので、これはGRの試みである。
78. 複数投げ:主要動作の選手は2個の手具を投げ、空中下で前方転回を実施、パートナーから投げなしで手具を受け取った。これは単独の複数投げとして評価されるか、または(無効な)コンバイン連係として評価されるか?プレアクロバット要素は記録されるか?
これはコンバイン連係(無効)として評価され、プレアクロバット要素が記録される。主要動作の選手は、複数投げ/複数受けの手具の空中下で回転を実施すべきではない。主要動作の選手が手具の空中下で回転を実施した場合、GRの定義を実施したことになる。
79. 複数受け:主要動作の選手は手具を投げないが、手具の空中下でプレアクロバット要素を完了し、次に2個の手具を受けた。これはコンバイン連係として評価されるか?プレアクロバット要素は記録されるか?
これはコンバイン連係(無効)として評価され、プレアクロバット要素が記録される。主要動作の選手は、複数投げ/複数受けの手具の空中下で回転を実施すべきではない。主要動作の選手が手具の空中下で回転を実施した場合、GRの定義を実施したことになる。
80. 複数投げ:2個の手具を投げる主要動作の選手は、プレアクロバット要素を全く実施しない。しかし、この連係では、別の選手がプレアクロバット要素を実施した。このプレアクロバット要素は記録されるか?
はい。複数投げの連係中に選手が実施したプレアクロバット要素は、審判によって記録され繰り返すことはできない。
81. 複数受け:3名の選手が1個目の手具を一緒に受け、そのうちの1名が2個目の手具を受ける。これは複数受けか?
はい、他のすべての複数受けの必須条件が満たされている場合。

芸術 (個人+団体)

82. 音楽に非倫理的な歌詞、話し言葉、車のエンジンが含まれている場合、「ルールに従わない音楽」という減点は1回または3回のどちらか?
減点は1回。各演技に対して音楽が、規則に従うか、従わないかのどちらかになる。
83. アイデアのガイド:アイデアのガイドで0.0点の評価を得るためには、全ての難度で特徴を伴い実施する必要があるか?
いいえ、いくつかの難度は特徴を伴わず実施でき、特徴のないパーツがない限り、演技は0.0点を得ることができる。#3.2.2を参照。「『完全に発達し、実現している』とは、全ての1つの動きが特徴のディテールを持つという意味ではなく、どこを見ても特徴が欠けていないことを意味する。

84. アイデアのガイドとパーツの認識：「1つのパーツ」を認識するためには、正確にはいくつの難度と/またはつなぎが必要か？

#2.7.2. は、つなぎを伴った2-4個の難度の連続を説明している。STSで詳しく説明されているように、「2-4」の意味は、多くの場合、2個の難度が同時に実施されるが(例えば、DAを伴ったDB)、これはまだ「パーツ」ではないからである。他の場合、2個の難度がつなぎ(例、DB+つなぎ+R)によって分かれており、パーツとして十分である。ポイントは、特徴を伴い連続した(単独ではない/接続されていない)難度/つなぎを見つけることである。

「パーツ」となる例

- 特徴を伴ったつなぎ + 特徴を伴ったDA + 特徴を伴ったDA
- 特徴を伴ったDB&DA + 特徴を伴ったDA + 特徴を伴ったつなぎ(DB&DA; 同じ瞬間)
- 特徴を伴ったDB + 特徴を伴ったDA + 特徴を伴ったDA
- 特徴を伴ったつなぎ + 特徴を伴ったR&DB + 特徴を伴ったつなぎ

「パーツ」ではない例

- 特徴を伴ったつなぎ + 特徴なしのDB + 特徴を伴ったつなぎ
- 特徴を伴ったDA + 特徴を伴ったつなぎ + 特徴なしのDA
- 特徴を伴ったつなぎ + 特徴を伴ったつなぎ + 特徴を伴ったつなぎ(これが完全なダンスステップコンビネーションでない限り)

85. アイデアのガイドとパーツの認識：「特徴を伴った難度」になるためには、難度のどの部分に特徴を見せなければならないか？

特徴は難度のどの部分でも見ることができる、必ずしも「最高の瞬間」に見せる必要はない。例：

- ローテーション DBでは、特徴は、準備から形への移行、固定された形で、と/または固定された形を残している間(形からの変化)で見せることができる。特徴が回転のあとのステップで見えるだけの場合、これは「つなぎ」であり、「特徴を伴う難度」ではない。
- Rの特徴は、投げの瞬間、手具の空中下、など、例えば1つまたはそれ以上の回転要素の間、と/または受けの瞬間に見せることができる。特徴が受けが完了したあとに見えるだけの場合、これは「つなぎ」であり、「特徴を伴う難度」ではない。

86. アイデアのガイドとパーツの認識：選手は12秒間ダンスステップを実施。これは1つのパーツとしてカウントされるか、または最初の8秒が1つのパーツ(S) + 次の4秒が2番目のパーツか？

連続した踊りは複数のパーツにならない。しかし、4秒の中に難度も含まれているか、または難度につながる場合、これも特徴を伴って実施されるため、新しいパーツになる。

87. アイデアのガイドとパーツの認識：ダンスステップが無効だった場合、特徴を伴って実施された「パーツ」としてカウントするべきか？

これは、ダンスステップ中の問題の種類によって異なる。アイデアのガイドにとって、「パーツ」とは、特徴を伴った連続した動き/要素のシーケンスである

- S全体が特徴を伴って実施されているが、8秒以内にDAがある場合、Sは無効(DAは許可されていない)であるが、特徴を伴った部分は実施され、アイデアのガイドにカウントされる。
- ダンスの途中で手具を喪失し、手具を取りに走った場合、Sは無効(手具の喪失)、特徴を伴ったパーツ(連続していない、走ったことによって中断)とは認識しない。
- 特徴を伴ったダンスの最後に手具を喪失し、選手がその手具を取りに走った場合、Sは無効(手具の喪失)であるが、特徴を伴ったパーツではあるため、アイデアのガイドに数えられる。

88. アイデアのガイド:0.0または0.3点の減点を適用、「身体の異なる部位の使い方に優れた多様性がある」(#3.2.3.)が必要。「優れた多様性」と「多様性に欠ける」の違いを見分ける方法について、いくつかのガイドラインを提供してもらえるか？
優れた多様性とは、多くの異なる身体の部位が特徴のディテールを作ることに貢献していることを意味する:演技中の異なる瞬間、と/または演技中の同じ瞬間の組み合わせ。多様性に数学的なルールはない。1つまたはいくつかの身体の部分が支配的である場合(例えば、腕と手がしばしば特徴を作り出す一方で、脚、腰、首/頭はあまり貢献しない場合)、多様性に欠けており、最低でもアイデアのガイドの減点は0.6点である。
89. アイデアのガイド:演技は連続性の中断を伴って実施された(例えば、手具の喪失、4秒またそれ以上)。これは、アイデアのガイドの評価に影響するか？
「連続性の中断」により「アイデアのガイド」の減点が直接増えることはない。また特徴を伴う4つのパーツがあるかもしれない(-0.6点)。演技の「大部分」に特徴があるかもしれない(-0.3点)。減点が0.0点に到達する可能性は、中断の影響にもよる。
90. 表現:選手が手具を喪失し、それを取り戻すために走る。審判は、この瞬間または一部、表情や身体の表現がないとみなすべきか?このような状況で選手が表現に対して0.0点の評価となるか？
中断が終わるまでの間、表現は評価されない。この間は表現の評価に影響しない。
91. 身体の表現:多くのDBは、固定されたまっすぐな体幹を必要とする。そして、多くのDBでは、正しい技術は腕を第2ポジションの位置に置くことである。これは「身体部位の硬直」の瞬間と見なされるか？
いいえ、選手は技術的に正しい方法でDBを演技したからといって「減点される」わけではない。審判は、特に固定されたDBの形ではなく、表現をするために身体の各部位を自然に使う動きやつながりの中で「身体の硬い部分」に注意する必要がある。ただし、第2ポジションの腕も、そのポジションに入るときやポジションを終えるときに緊張し、硬直するのではなく、自然で柔らかいものでなければならない。
92. 表情:新体操の演技では、選手が審判から顔をそらす瞬間が数多くある。そのようなときに表情をどのように評価するか？
私たちは選手が背を向けたとき、「背を向ける」前/後の表情と同様の表情をしていると推測する。
93. ダンスステップ:床上にブーメランを投げてもよいか？
はい、ブーメランを空中に投げても良い。手具技術要素の「高い投げ」(2本のクラブの高い投げのすべてのバリエーションを含む)のみが許可されていない。他の技術要素、例えばいずれかの種類のブーメランを使用することができる。
94. つなぎ:選手は、高さの急な変更、同時に移動の方向の急な変更、手具の操作面の急な変更を行う。この場合、0.1点または0.3点の減点が与えられるか？
つなぎの減点は「そのつど」、つまり過失が発生するたびに行われる。同時に複数の過失(高さ+方向+手具など)がある場合、これは、0.1点の減点を1度与える。。

95. 中断:選手は、演技の終わりに近づいたとき手具を喪失。選手は4秒動き続け、その後、手具を取り戻さず最後のポーズを行った。「中断」の減点は演技終了時に適用されるか?
はい、選手が手具を喪失してから最後のポーズまでの間に4秒以上動いた場合、「連続性の中断」の減点が適用される。
96. 共同作業:技術的ミスにより、選手の1人がコントラストの実施を開始するのが少し遅れた。選手はすぐに正しいタイミングで「追いつく」ことができた。共同作業のコントラストは評価されるか、また、審判員はいつからカウントを始めるべきか?
#7.2.2.を参照。「各種類の共同作業は、選手達間のタイミングのわずかな実施欠点があっても認識される」必要な演技時間は、すべての選手がコントラスト演技を実施する場合、最低2秒。
97. 共同作業:団体で、素早い連続の共同作業を実施。共同作業で最後の選手が動きを終える間、最初の選手は次の難度(例:CRの投げ)を開始する。共同作業は有効か?
#7.1.1.5.「共同作業が難度要素以外で実施されること」を参照。共同作業中に1名以上の選手が難度を実施する共同作業は認められない。
98. 共同作業:身体での造形/持ち上げられた位置で2~3秒間保持する。4名のサポートする選手達は全員同じ身体位置にあり、5人目の選手は高く持ち上げられる。これは、高さの対比を伴う共同作業か?
いいえ。空中で持ち上げられた位置は、連携した動作であり、共同作業はない。
99. 身体での造形:持ち上げられた選手は上げられた位置に飛び乗ることはできるか?
いいえ、#12.1.「上げられた選手は持ち上げられる、または上げられた位置に登ることができる」を参照。その位置に飛び乗る選択肢はない。
100. 身体での造形:足で支える場合:足全体を床に接触させる必要があるか、または「部分的な支え」は許可されるか?
足のどの部分(つま先、またはかかとなど)でも許可される。
101. 身体での造形:「4秒未満」の間とは、選手が床を離れた時からカウントされるか、または上げられた位置が作られた時にカウントするか?
「床から上げることができるのは4秒未満」(#12.1.)とは、身体が床から離れてから再び床に着地するまでの間を意味する。
102. 不正確な軌道を伴う投げ、選手は手具を受けるために5歩の大きなステップ。芸術(つなぎとリズム)にどのような影響があるか?
これは実施の減点(不正確な軌道)である。芸術は、実施の過失に基づいて判断することはできない。芸術には「標準的な」結果はない。:それはそのときの状況と選手がどうするかによる。

- 選手が予定していた演技を明らかに中断した場合、つなぎの減点はない:手具を取り戻す目的で5歩走る=つなぎの減点はない。特徴と目的のない単純な5歩のステップ=つなぎの減点。受けた後、選手が動きを再開する際に追加の調整を行った場合(例:フロア面の新しい位置に歩く/走る)、つなぎの減点が与えられる。
- リズムの評価は、過失中の音楽による。ランニングがテンポに一致し、明確なアクセントを無視していない場合、リズムの減点はない。選手が音楽とは異なるテンポでランニング、ランニング中に明確なアクセントに外れた場合、リズムの減点を与える。(1回または数回)。

103. 団体の選手達がパートナーを待つために止まった場合(例:選手が他の選手より先に動きを終えた場合)、芸術でつなぎの減点を与える。リズムにも減点はあるか?
これは音楽による。音楽に選手達が目安にしているアクセントがある場合、振り付けの理由なく立ち止まった選手にはリズムの減点を与えられる。「立ち止まる」がその瞬間の音楽に合っている場合、リズムの減点はない。
104. 団体の選手達がお互いの同時性を失ったとき、芸術でリズムの減点はあるか?
これは、リズムと音楽のアクセントによる。5名の選手全員が動きの異なる局面でもリズムと合わせることができる。例:4名の選手がカウント1でフェッテピボットを開始、1名の選手がカウント3でフェッテピボットを開始、そして全員が同じアクセントをとり続ける。同時性に対する実施減点は、自動的にリズムの減点にはならない。

実施 (個人+団体)

105. 下の写真に基づく:どの形が誤差に対しての減点になるか、またこのリープに対する減点の合計は何点か?



学習に使用している写真は、あくまでも身体の線の感覚をつかむためのものである。すべての審判員が難度の誤差の程度を理解し、学ぶことができる非常に良い図がある。ジャンプの誤差を判断するときは、ジャンプ/リープの最高の局面での形を見ること。